

報道関係者各位

2025 年 9 月 12 日

国立成育医療研究センター 女性の健康総合センター

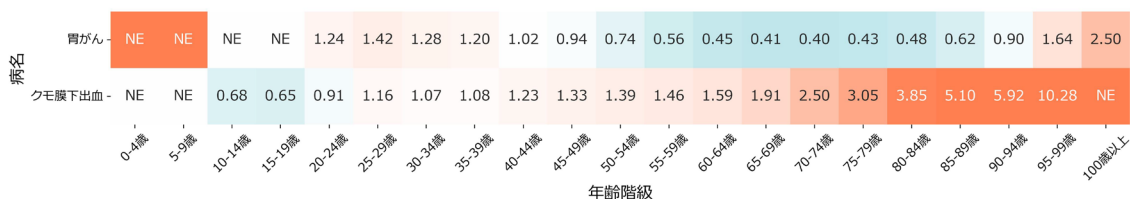
ナショナルセンター医療研究連携推進本部 (JH)

**20～35 歳では「胃がん」は男性より女性の方が多い
女性の健康総合センターが疾患別性差の可視化レポートを公開
～性差に合わせて適切な医療を設計する未来を目指して～**

国立成育医療研究センター（東京都世田谷区、理事長：五十嵐 隆）に設置された女性の健康総合センター（センター長：小宮ひろみ）の女性の健康推進研究室（室長：森崎菜穂）とデータセンター準備室（室長：中野孝介）は、ナショナルセンター医療研究連携推進本部（JH）による「6NC 連携の NDB 研究基盤による重点疾患の疫学・政策研究の推進」研究グループと連携し、匿名医療保険等関連情報データベース（NDB）を活用して疾患性差を可視化する研究を行い、報告書を公開しました。

その結果、胃がんは「男性に多い」という一般的なイメージとは異なり、若年層（20～35 歳）では、男性より女性の方が多い傾向が認められました。また、クモ膜下出血は女性に多いとされますが、女性が多くなる傾向は年齢とともに上がっていくことが明らかになりました。さらに乳がんについては、30 歳以降のすべての年齢層で女性が圧倒的に多いものの、55 歳以降は男性の患者数が増加し男女差が徐々に縮小することが示されました。

本研究は、全国規模の医療保険データを用いて疾患別性差を包括的に可視化した初めての取り組みで、今後の政策立案や健康施策の基盤情報として活用されることが期待されます。



【図 1：胃がんとクモ膜下出血の 2 疾患の有病者数男女比ヒートマップ】

＜表の見方＞

- 病名別・年齢階級別有病者数の男女比率を表示しています。
- 有病者数の男女比率は、女性の有病者数／男性の有病者数で示しています。
- 4 倍を超える比率の場合は、最も濃い配色で表示しています。



【図2：全疾患の有病者数男女比ヒートマップ】

＜表の見方＞

①病名別有病者数の積み上げ棒グラフ

- 病名別の有病者数を表示しています。
- 男性の患者数を水色、女性の患者数をオレンジで表示しています。
- 総有病者数の降順で表示しています。

②病名別年齢階級別有病者数の男女比率のヒートマップ

- 病名別、年齢階級別有病者数の男女比率を表示しています。
- 有病者数の男女比率は、女性の有病者数／男性の有病者数で示しています。
- 総有病者数の降順で表示しています。
- 4倍を超える比率の場合は、最も濃い配色で表示しています。
- 心筋梗塞、急性大動脈解離は0～19歳までの年齢は、5歳ごとの有病者数データが存在しないため表示していません。

【プレスリリースのポイント】

- 女性の健康総合センター 女性の健康推進室および、データセンター準備室は、がん・糖尿病・循環器疾患・神経筋疾患の性差に関する可視化レポートを作成しました。
- 本レポートの作成では、JH の研究グループがまとめている 2012 年～2020 年度の匿名医療保険等関連情報データベース（NDB）から算出した性別・年齢階級別の各疾患の患者数などのデータを使用しました。
- 胃がんなどは「男性に多い」という一般的なイメージとは異なり、若年層（20～35 歳）では、男性より女性の方が多い傾向が認められました。
- 女性に多いとされるクモ膜下出血、乳がんなどについても、年齢ごとの性差の変化パターンが明らかにされました。
- 乳がんの最も多い年齢層は近年では 65 歳以降にシフトしていき、また 55 歳以降は男女さんが徐々に縮小していくことが分かりました。
- 今後も女性の健康センターの各研究室および、データセンター準備室は、ライフコース全体を視野に入れ、さまざまなデータを活用しながら性差に着目した健康データ解析を継続していきたいと考えています。

【研究概要】

「6NC 連携の NDB 研究基盤による重点疾患の疫学・政策研究の推進」研究グループが 2012～2020 年度の匿名医療保険等関連情報データベース（NDB）の特別抽出データから算出した性別・年齢階級別の各疾患の患者数、および総務省統計局のオープンデータによる年齢別総人口を用いて、有病者数と有病率の性比（男性／女性）および年齢階級ごとの変化を算出・可視化しました。

<対象疾患（2025 年 6 月時点）>

がん（胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、肝がん）、糖尿病、循環器疾患（脳梗塞、脳内出血、クモ膜下出血、心筋梗塞、急性大動脈解離、心不全）、神経・筋疾患（デュシェンヌ型筋ジストロフィー・ベッカー型筋ジストロフィー・ミオチューブラーミオパチー・脊髄性筋萎縮症）

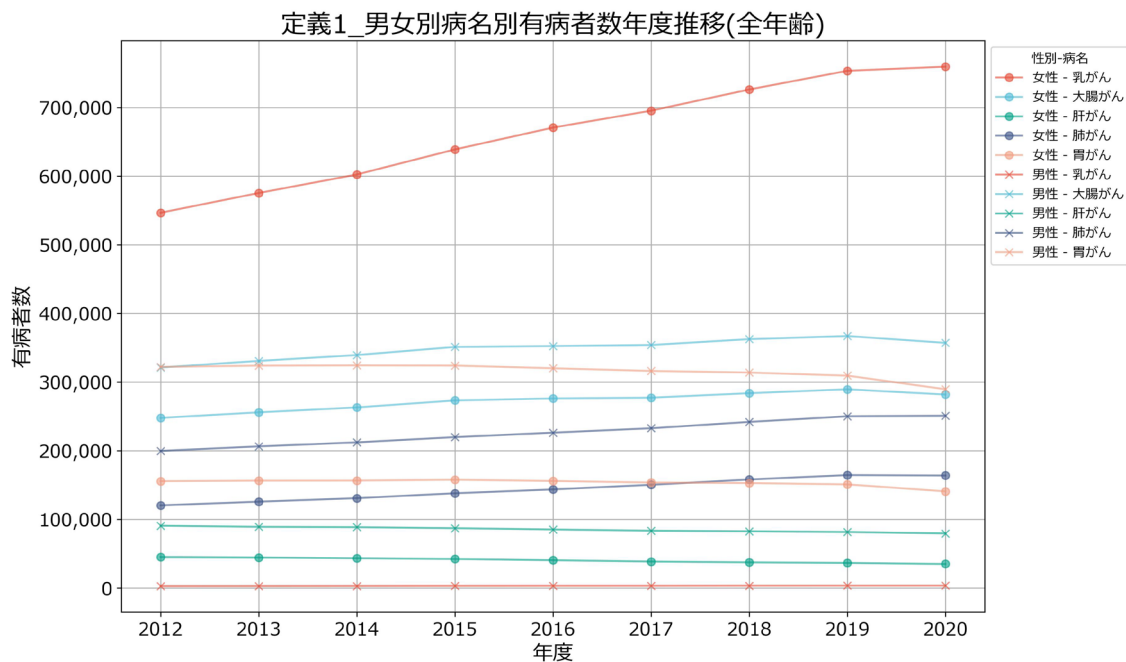
<留意点>

- 本研究はレセプト情報の二次解析であり、実際の有病者数を直接示すものではありません。

- 受診歴のない患者、公的医療保険を利用していない患者、全額公費負担で医療を受けている患者は本データに含まれません。
- レセプト上の傷病名と実際の診断名には乖離が生じる可能性があり、疾患定義の工夫が必要です。



【図3：乳がんの経年変化のヒートマップ】



【グラフ1：性別・病名別の有病数の年度推移】

【今後の展望・発表者のコメント】

疾患の性差は一律ではなく、年代や人口集団によって拡大・縮小するダイナミクスを持ちます。こうした変化を明らかにすることは、疾患ごとのリスクを正確に把握し、ライフコースに沿った適切な対応策を検討するうえで不可欠です。

国内外では「性差医療」や「ジェンダーイノベーション」への関心が高まっており、医療を男女それぞれにとってより適切に設計することの重要性が繰り返し指摘されています。こうした取り組みは、疾患の予防から診断・治療に至るまで、健康寿命の延伸や生活の質の向上に直結するだけでなく、新しい技術やサービスを生み出す契機にもなり、社会や市場からの注目も高まっています。

女性の健康総合センターでは、今後さらに多くのデータを収集・整理・可視化し、その成果を社会に発信していきたいと考えています。そして当センターから得られた結果が、官・民・学における研究、診断や治療法の開発、政策や啓発活動に幅広く活用されることで、予防、受診勧奨、治療最適化といった医療の各段階において、男女それぞれにとってより適切で質の高い医療が実現されることを期待しています。

【ナショナルセンター 医療研究連携推進本部について】

ナショナルセンター医療研究連携推進本部（Japan Health Research Promotion Bureau: JH）は、日本の6つのナショナルセンターの資源・情報を集約し、それぞれの専門性を生かしつつ有機的・機能的連携を行うことによって、世界最高水準の研究開発・医療を目指した新たなイノベーションを創出することを目的とし、2020年4月に発足した横断的組織です。

【特記事項】

本研究は、ナショナルセンター医療研究連携推進本部横断的研究推進費の助成を受けて実施しました。

【研究に関する問い合わせ先】

国立成育医療研究センター 広報企画室 村上・神田
電話：03-3416-0181（代表） e-mail：koho@ncchd.go.jp

【6NCNDB 研究に関するお問い合わせ】

国立研究開発法人国立高度専門医療研究センター 6NCNDB 研究事務局
<https://ndb6nc.jihs.go.jp/contact.html>